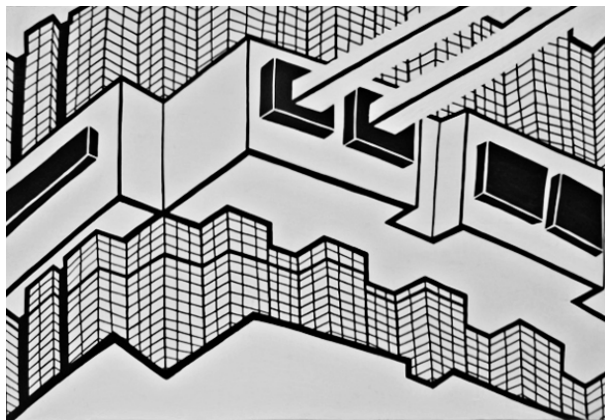


**The BAR (The Backers Foundation and AIT residence programme) vol. 6**

**「ざわめきのあられ／Divided Against Ourselves」展のご案内**

中南米から気鋭のアーティスト、アレグラ・パチェコ（コスタリカ）と  
アルベルト・ロドリゲス・コジア（グアテマラ）の2名が新作を発表します。

会期：2013年7月13日（土）-7月27日（土） 会場：山本現代



【図版 1】



【図版 2】

- 
- ト オーナー型経営者とアート NPO が手がけるユニークなアーティスト・イン・レジデンス事業の 6 回目！
- ト 今年はコスタリカ、グアテマラ、そしてナイロビ出身のアーティストとキュレーターを招へい！
- ト 東京は「快樂抑圧都市」!? 若手アーティスト 2 名が、3 ヶ月の滞在生活から見た「東京」を新作として発表！

この度、バックーズ・ファンデーションと NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]は、7月13日（土）から7月27日（土）まで、「ざわめきのあられ／Divided Against Ourselves」展を白金高輪の山本現代にて開催いたします。

本展は、海外のアーティストを東京に招へいするアーティスト・イン・レジデンス・プログラムの成果展となり、本年はアレグラ・パチェコ（コスタリカ）とアルベルト・ロドリゲス・コジア（グアテマラ）の2名が、その3ヶ月の生活から見えた日本の発見、不可思議さ、思いがけぬ出会いなどを新作として発表します。

コスタリカ出身のパチェコは、主に写真やドローイングを制作しています。「The Boobs (乳房)」(2012)では、コスタリカのラ・カルピオ地区の女性たちとの共同作業により、乳房の形をしたソフト・スカルプチャーを制作しました。移民女性の労働問題や社会状況を浮き彫りにするこの作品の売り上げは全て、その地区の女性支援に充てられました。本展では、東京の密集する建築や都市構造から見える過剰なまでの秩序や法則、そして人々を飲み込んでいくかのように増殖し続ける街の気味悪さやおかしみを、写真やドローイング、コラージュなどの新作として表現します。

初来日となるロドリゲス・コジアは、インターネットや新聞から集めた画像など、他者の創作物を引用し、映像やドローイングを制作しています。2008年には、グアテマラのアーティストとともに、街で見つけたグラフィティや風刺画など、匿名の表現を集める「La Favorita (みんなの一番)」プロジェクトを行い、社会に溢れる声無き声の集合体を展示しました。今なお政治的に不安定なグアテマラに住むコジアは、氾濫するメディアイメージを巧みに借りながら、社会のあり方を嘲笑することを企みます。本展では、グアテマラと東京の自身の経験をモチーフに、半自叙伝的な物語を、新作の版画作品として発表します。

アートコレクターの台頭やアートマーケットの拡大により、近年、中南米のアートシーンは世界の注目を集めています。その一方で、それを構成する一つひとつの国の複雑な社会情勢や文化、また、創造力を、私たちは知る機会が少ないといえます。地下鉄の中、ビルの隙間、街を歩くサラリーマンや学生、その出会いや観察の全てが制作のひらめきとなる彼らの体験を通して世界を眺めてみることは、私たちに、「知り得ぬもの」を想像する力を与えてくれるといえるでしょう。つきましては、本展を是非ご紹介いただきたく、周知、告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

**展覧会概要**

**The BAR (The Backers Foundation and AIT residence programme) vol. 6**

**「ざわめきのあられ／Divided Against Ourselves」**

**アレグラ・パチェコ（コスタリカ）とアルベルト・ロドリゲス・コジア（グアテマラ）の新作展**

会期： 2013年7月13日（土）-7月27日（土） 11：00 - 19：00 （日月祝は休廊）\*入場無料

会場： 山本現代 108-0072 東京都港区白金 3-1-15-3F TEL：03-6383-0626

主催： NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]

共催： バックーズ・ファンデーション

協力： 山本現代

レセプション： 7月13日（土）18：00 - 20：00

関連企画：AITにて、アレグラ・パチェコ、アルベルト・ロドリゲス・コジア、そして、本プログラムの招聘キュレーターであるジミー・オゴンガ（ナイロビ、キュレーター）のトークを行います。日程は追って発表いたします。

・展覧会および取材、画像貸し出しに関するお問い合わせ：

山本現代 担当：野中 Tel & Fax: 03-6383-0626 email: i@yamamotogendai.org

・バックーズ・ファンデーションに関するお問い合わせ：

NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] 担当：依田 Tel: 03-5489-7277 email: otoiawase@a-i-t.net

## アーティスト紹介



### ■ アレグラ・パチェコ / Allegra Pacheco (1986年コスタリカ生まれ、ロンドン在住)

- ・ 2011 スクール・オブ・ビジュアル・アーツ (ニューヨーク) 写真学科卒業
- ・ 2012 ウィンブルドン・カレッジ・オブ・アーツ (ロンドン) 修士課程在籍
- ・ 2010 「White Box」 SCOPE Art fair (マイアミ)
- ・ 2010 「New York Photo Festival」 DUMBO BK (ニューヨーク)
- ・ 2012 個展「Tokyoscapes」 ジャスト・アナザー・スペース (東京)

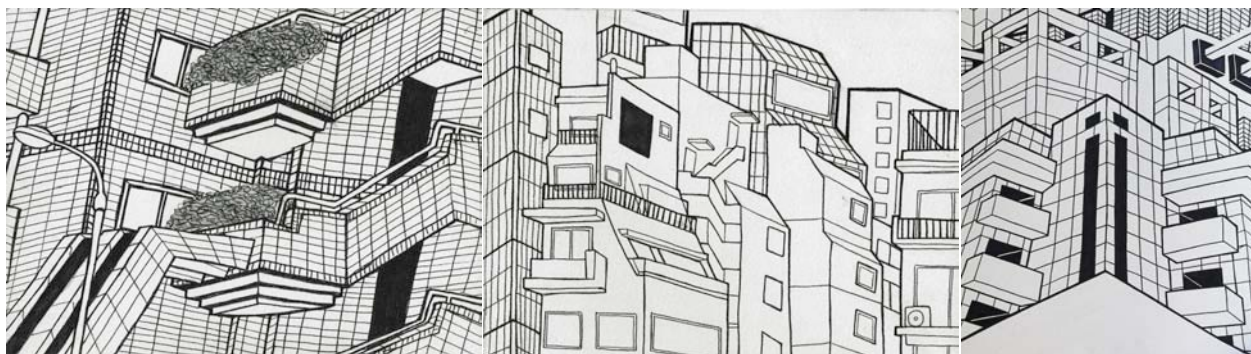
写真やドローイング、インスタレーションを制作している。今回の東京滞在は2度目となり、前回の滞在時には、その様子を一連の写真作品「Japan」として制作した。そのシリーズには、映画『ブレードランナー』を思わせる近未来的な建築のほか、飲み屋街、ラブホテル、地下鉄のホームに寝転がる泥酔したサラリーマンの様子など、秩序の中にある雑多な「東京」の様子が写し出されている。コスタリカにおいては、女性たちとの共同制作において、彼女たちの労働環境や社会的な立場を想起させる「The Boobs」により、社会の中で不可視になりがちな抑圧構造をユーモラスに浮かび上がらせた。



[図版 3]



[図版 4]



[図版 5]

### アレグラ・パチェコ

[図版1] 「Untitled」 / 木、アクリル絵具、墨、油性ペン / 2013年 / (参考作品)

[図版3] 「Untitled」 (東京シリーズより/森美術館) / 2011年 / (参考作品)

[図版4] 「The Boobs」 / ミクストメディア / サイズ可変 / 部分 / 2012年 / (参考作品)

[図版5] 「Untitled」 / 木、アクリル絵具、墨、油性ペン / 2013年 / (参考作品)



■ アルベルト・ロドリゲス・コジア / Alberto Rodríguez Collía  
(1985年グアテマラ生まれ、在住)

- ・ 2007 エスクエラ・デ・アルテ 10 (マドリード) にて彫刻を学ぶ
- ・ 2007 グアテマラ初の彫刻専門工房「Taller Experimental de Grafica」を友人と設立
- ・ 2010 「セントラル・アメリカン・ピエンナーレ」(ニカラグア)
- ・ 2012 「Estampida」DesPacio ギャラリー (コスタリカ)

テレビやインターネット、新聞の写真など、既存のメディアからモチーフを引用し、ドローイングや映像作品、版画を制作している。そうした作品の数々は、時に、植民地時代の歴史や、グアテマラの複雑な政治・社会に対する辛辣なアイロニーとして表現される。作品「Weekend (週末)」(2009)では、国を引き裂く発端となったグアテマラ内戦(1960-1996)を題材とし、語られない事実に対するシニカルな視点を一連のペインティングとして発表した。新聞の画像をスキャンし、大仰な色で塗りつぶした政治的な場面は、あえて安っぽく額装され、出来の悪い家族写真のように配置されている。それらは、ゲリラ、和平協定、腐敗した経済、政治、社会状況など、コジアと同世代の若者が巻き込まれてきた権力に対する嘲笑が込められている。



[図版 6]



[図版 7]



[図版 8]



[図版 9]

アルベルト・ロドリゲス・コジア

[図版2] 「Weekend」シリーズより/ スキャンした新聞、ガラス、額 / サイズ可変 / 2009年 / (参考作品)

[図版6] 「Vegetation」/スーパー8ミリフィルム (デジタル変換) / サイズ可変 / 2013年 / 3分7秒 / (本展展示作品)

[図版 7] 「No lugar (Non place)」/ アルミニウム画 / サイズ可変 / 2013年 / (本展展示作品)

[図版 8-9] 「Weekend」シリーズより/ スキャンした新聞、ガラス、額 / サイズ可変 / 2009年 / (参考作品)

\*アーティスト 2 名は 8/8 まで、キュレーターは 8/1 まで東京に滞在します。取材をご希望の際はお問い合わせください。

**バックアツ・ファンデーション**とは：「バックアップしていく人たち」という意味で、オーナー型経営者が集まり、社会貢献事業を行なう経営者有志の任意団体です。1994年に社団法人日本動物福祉協会を助成することからスタートし、現在は、各団体に支援金を送るだけでなく、実際に会員たちが現場へ足を運び、「明るく楽しく」を合言葉に参加する活動を行っています。現在は、55人の会員が在籍し、そのなかで複数の委員会を作り、メンバー自らが参加型で手作りの活動を行なっています。本プログラムのほか、2005年からは「バックアツ 寺子屋」という子どもたちを対象にした塾の運営もを行っています。The BARシリーズでは、これまでに、インド、ブラジル、アフガニスタン、シンガポール、モロッコ、インドネシアなどの国々から、10名のアーティストと5名のキュレーターを招聘し、2012年には、全招聘アーティスト10名による「ホームアゲイン—Japanを体験した10人のアーティスト」展を原美術館にて開催しました。

**AIT (Arts Initiative Tokyo)**とは：2002年5月に東京都より認証をうけたNPO法人で、東京を中心としたさまざまな場所に現代の視覚芸術にアクセスするための「プラットフォーム」の創出をめざして設立されました。教育プログラム「MAD (Making Art Different)」、国内外のアーティストやキュレーターを対象としたレジデンス・プログラム、アーティストやキュレーターによるトーク、シンポジウム、ワークショップ、展覧会などのイベントを行っています。www.a-i-t.net